

美郷大使 永田 萌さん

昭和24年、兵庫県生まれ。絵本作家。花と妖精をテーマとした夢あふれる作風で、絵本やエッセイなど140冊を超える著書を発表。平成21年には美郷町学友館で特別展を開催、合併5周年記念式典では記念講演を行うなど美郷町とのゆかりも深い。元兵庫県教育委員長。京都府在住。



美郷大使 メッセージ

美郷町の魅力の発信や、町づくりへの提言をいただくことを目的に、絵本作家の永田萌さん、北都銀行取締役会長の町田睿さん、学習院大学教授の佐々木毅さんの3名に美郷大使を委嘱しています。このたび、美郷大使である永田萌さんからメッセージをいただきましたので、ご紹介します。

旅する町

永田 萌

わたしの住む京都には飛行場がない。必要のあるときは兵庫県の伊丹空港か大阪府の関西空港まで行くが、どちらの飛行場も電車で1時間以上かかる。でもそこからほぼ同じ時間をかけて飛行機に乗ると、かなり遠くまで行くことができる。新幹線で2時間だと東京にも着けないが、飛行機によるこの移動距離は、確実に「旅に出てどこか遠くへ行く」と思わせてくれる。

昔のことだが、わたしは、旅の星のもとに生まれている」と占い師に言われたことがある。占いどおり今までたくさん旅をしてきた。そんなかつて訪れたことのある土地の数々を思い出すと、一度きりの所もあるし、何度も訪れているお気に入りの町もある。必ずまた行きたいと思うのになぜか縁のない場所もあるし、行きたいと願ってそれが不思議と何度も叶う町もある。

美郷町。そう、美郷町は近年、行きたくて

何度も旅した町のベスト5に確実に入る。仕事もあるけれど、わたしにとつては、「あの人に会いたい」「あの風景が見たい」「あのおいしいものがまた食べたい」という旅する動機の3点セットが間違いない満たされる魅力的な町なのだ。

春を待つこの季節、美郷の町の野原も山も雪に包まれ真っ白だろう。白い世界に天筆が舞うあの美しさが忘れられない。夜空をこがす竹うちの炎の色も胸に刻まれている。共に空をおおいだ人たちの笑顔のやさしさも。

次に行くのは山菜の季節と決めている。名人に連れられて山に入り、山菜採りの極意を身に付けるのだ。

旅人がいつか「おかえりなさい」と迎えてもらえる日がくれば、そこはもう旅先の町ではない。わたしもいつかその言葉が聞けるように、これからもせっせと出かけよう。その名のとおり美しい美郷町へ。

美郷町と秋田県立大学 連携協力協定を 締結

美郷町と秋田県立大学は、それぞれが保有する資源や情報、研究成果等を活用し、地域社会の発展や産業振興に寄与することを目的に連携協力協定を締結しました。

協定締結式は2月16日に役場庁舎で行われ、関係者や町内農業・商工団体の代表者ら約35名が出席する中、松田町長と小間篤県立大学理事長兼学長が協定書を取り交わしました。松田町長は、あいさつで「行政の諸課題を解決し、実現性のある取り組みを行うためには、様々なネットワークが必要不可欠。県立大学との協同により、課題解決のスピードを加速させていきたい」と述べ、小間理事長兼学長は、「大学の研究成果を還元することで、地域の発展に貢献したい」と話しました。

【県立大学との主な協力事項】

- ・ 農業における加工品技術、製品化および流通の研究
- ・ 有機質肥料の施肥による土壌改良実証
- ・ 製造業における新製品、技術開発の支援
- ・ 各種セミナーの開催 など

町では今後、県立大学の知的資源を活用し、次の協力事項に連携して取り組むことで、地域産業の活性化を図っていきます。なお、美郷町が教育機関と連携協定を締結するのは、昨年5月の秋田大学との連携協定に続き2例目となります。



協定書を取り交わし、握手をする
小間理事長兼学長(写真左)と松田町長(写真右)

県立大生が町内で 除雪ボランティア

2月16日の連携協定締結に先立ち、県立大学の学生除雪隊「県大スコップレンジャー」が美郷町を訪れ、高齢者世帯の除雪作業を行いました。参加した学生や大学職員など24名は4班に分かれて対象者宅を訪問し、スコップやスノーダンプを手に玄関先や軒先の雪かきに汗を流していました。県立大生の皆さん、ありがとうございました。



公共交通機関を利用して 地域の足を確保しましょう

路線バスや鉄道は地域の皆さんの大切な足となる公共交通機関です。この大切な地域の足を確保するため、運行事業者による効率的な運行やサービス向上に加え、町では事業者への財政支援を行っています。

一方、家用車の普及や少子化などにより、公共交通機関の利用者は減少傾向にあります。特に羽後交通千屋線の利用者の減少が懸念されています。これに対処するため、現在、千屋線の沿線自治体である美郷町と大仙市、運行事業者である羽後交通の3者により、路線維持や利用促進に関する検討を行っています。まずは地域の皆さんにバスを利用していただくことが肝心です。

現在、家用車やバイクなどを利用している方も、将来はバスや鉄道などの公共交通機関を利用する可能性があります。住民一人ひとりが公共交通機関の存在を認識し、よ

り多くの方に利用していただくことが、地域の足を確保するうえで最も大切な取り組みとなります。バスをはじめとする公共交通機関の積極的なご利用をお願いします。

【問い合わせ】

美郷町地域公共交通活性化
再生協議会（町総務課内）
☎0187(84)1111



羽後交通株式会社の
路線バス「千屋線」
利用者の減少が続いています。